

竹林の風

～ すべては学校のため すべては子どもたちのため ～

栃木県教育委員会事務局
河内教育事務所
令和7年2月18日
発行責任者 黒須親章
<http://www.pref.tochigi.lg.jp/m51/kawachi-kyouiku@pref.tochigi.lg.jp>

第79号



児童・生徒指導に関する諸計画等の見直しに向けて

今年度も残り2か月を切りました。学校では、これまでの様々な教育活動について、その成果と課題を確認し、次年度に向けた諸計画の見直しが始められているのではないのでしょうか。

昨年8月に改訂された「いじめの重大事態の調査に関するガイドライン」(文部科学省)は、重大事態発生時の対応などを詳細にまとめたものですが、学校が平時から備えておくべきことなどについても記載されているため、各校の児童・生徒指導に関する諸計画や学校いじめ防止基本方針を見直す際にも参考になる重要な資料と言えます。

そこで今回は、本ガイドラインから、一部ではありますが、児童・生徒指導に関する計画の見直しや体制整備等に当たり押さえておいていただきたい視点を取り上げましたので、是非御確認ください。

【第2章】いじめ重大事態に対する平時からの備え から

- 全ての教職員が、学校いじめ防止基本方針はもとより、いじめ防止対策推進法、いじめの防止等のための基本的な方針、本ガイドライン及び「生徒指導提要(改訂版)」を理解しておくことが必要。

☞ 職員研修等において全教職員で確認するなど、確実な理解のための仕組み・機会等が計画に位置付けられていますか？

- 学校いじめ防止基本方針を、入学時・各年度の開始時に児童生徒、保護者、関係機関等に説明することが必要。

☞ 児童生徒、保護者、関係機関等への説明の機会を設定していますか？

- いじめが犯罪行為に相当し得ると認められる場合には、学校としても、警察への相談・通報を行うことについて、あらかじめ保護者等に対して周知を行うことが重要。

☞ 周知の機会・方法が具体的に設定されていますか？ 警察への窓口担当者は決まっていますか？

- いじめを重大化させないことが重要であり、学校全体でいじめの防止及び早期発見・早期対応に取り組むことが極めて重要。

☞ 早期発見・早期対応のための具体的な仕組みが確立され、全教職員で共有されていますか？

- 「学校いじめ対策組織」において会議を開催した際の記録や児童生徒への支援及び指導を行った際の記録を作成し、保存しておくことが必要。

☞ いじめの有無によらず、定期的に「学校いじめ対策組織」が招集され、その記録が蓄積されていますか？

☞ 「児童生徒への支援及び指導の記録」は、推測や感想のような記録ではなく、「確認できた事項」と「確認できなかった事項」等、整理された正確な記録となっていますか？
「いつ」「どこで」「誰が」「誰に」「何を」「どうした」等が明記されていますか？

- 日頃の学校教育活動の中で作成、取得したメモ等をそのままにせず、各学校又はその学校の設置者において定める文書管理規則等に基づいて、適切に管理することも重要。

☞ 関係資料について、学校の設置者又は学校が定める文書管理規則等に基づき、保存期間を明確に定めるとともに、全教職員の間で共通理解を図り適切に管理していますか？

本ガイドラインには、上記内容以外についても、具体的な対応等が詳細にまとめられています。また、チェックリストなども添付されていますので、参照しながら児童・生徒指導に関する諸計画や学校いじめ防止基本方針の見直しを行い、その実効性高め、いじめの防止や、迅速で組織的な初期対応等の更なる充実を図っていただければと思います。



【「疑い」の段階を重大事態と言い、この段階から対応を開始すること】にも御留意ください。

SOSのサインを見逃さないために

子どもの様子に違和感を覚えたことはありませんか。教員が違和感を覚えた子どもの言動、その背景には、子どもが抱える困難があるのかもしれませんが。

今回は、子どもが見せる様々な言動について、それが「SOSのサインかもしれない」という視点から考えてみたいと思います。

＜違和感を覚える場面の例＞

- 授業に臨む姿勢と理解力にギャップがある
- 特定の教科や活動が特に苦手である
- 集団での活動を避けようとする、同世代の友達と遊ぼうとしない
- 大人の期待に過剰に応えようとする
- ノートを書きたがらない
- 大きな音やざわついた環境を嫌がる
- 特定の場面で落ち着かない
- 粗暴、虚言、自傷行為、暴言などがある
- 人の気持ちを察するのが苦手 など

一見、変わった子、わがままな子、個性的な子などと捉えそうですが、もしかしたらそれって...

困っているという
SOSのサインかも

- 「SOSのサインである」と考えた場合
 - 読んだり書いたりすることに困難さがあるのかもしれない
 - 自分の辛い気持ちを上手に表現できず、そうせざるを得なかったのかもしれない
 - 毎日、常に我慢をしているのかもしれない
 - 仕方がないと諦めてしまっているのかもしれない

- 教師が対応する際のポイント
 - 「～かもしれない」という視点で見る
 - 多くの目で見て、見立てを考える
 - 子どもの声を聞いたり、子どもと共に対策を考えたりする
 - 困り感や生きづらさを感じるところへの対応策を考える
 - 考えた対応策を試し、結果を検証した上で、改善や微調整を図る
 - スクールカウンセラーや関係機関に相談したり、つないだりする

- SOSを出している児童生徒への対応策の紹介（短期療法の手法から）

＜個人＞と＜問題＞を切り離して考える方法（問題の外在化）



僕は、今日もイライラして暴れてしまったな。どうしてこうなっちゃうんだろう。きっと、僕はダメな子なんだ。



そうか、悪いのは自分じゃなくて、イライラ君なんだ。イライラ君をやっつければ、僕は暴れなくなれるんですね。ぜひ考えてみたいです。



Aさんがイライラしてしまうのは、Aさんの中にイライラ君がいるからなんだよ。では、イライラ君をやっつけるためにどうするか、一緒に作戦を考えよう。

問題を引き起こしている原因を、本人と切り離してあげることで、悪いのは自分自身ではないと思うことができ、冷静に課題解決を考えることがしやすくなる。

- 「私の努力不足」と自分を責めたり、「恥ずかしい」と相談に抵抗したり、「生まれつき」と諦めたりする気持ちが薄まり、問題の原因について冷静に考えやすくなる。
- 問題を外在化することで、「イライラ君が登場する場面」「イライラ君を落ち着かせるもの」など、自身も問題を客観的に観察でき、原因を明らかにしやすくなる。
- 自己理解が深まり、具体的な自己コントロール方法を見い出すことにつながる。
- 例を挙げると、「痛い痛い飛んでいけ」とか、緊張を誘発する「ドキドキ君」など